

令和2年度 広瀬図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 令和3年2月5日(金) 13時30分～15時
- 2 会場 広瀬市民センター2階会議室
- 3 出席者 個人利用者 : 1名
児童館 : 1名
地域包括支援センター : 1名

- 4 配布資料 広瀬図書館 : 広瀬図書館長 他3名
①令和2年度 広瀬図書館事業実績
②令和2年度 広瀬図書館アンケート結果

- 5 内容 1. 開会
2. 挨拶 広瀬図書館長
3. 自己紹介
4. 令和2年度の取組み (配布資料①)
5. 図書館アンケートについて (配布資料②)
6. 新型コロナウイルス感染症対策について
7. 広瀬図書館へのご意見・ご要望等
8. 閉会

6 広瀬図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

(1) 広瀬図書館の事業全般

○「思い出アーカイブ」について

(個人利用者から)

- ・広瀬図書館では「思い出アーカイブ」という取組みを行っているが、こうした取組みは他の図書館でもやっているのか。
- ・私も既に亡くなられてしまった先輩に当たる方から「思い出アーカイブ」について聞き、作品も応募させてもらった。「思い出アーカイブ」には、その方が仙台西部を吟行した際のことが掲載されており、今でも詠んだ句やその心が伝わってくる。その方を偲んで、俳句の仲間にも「思い出アーカイブ」を紹介している。
- ・「思い出アーカイブ」はCD-ROMで閲覧できる。更に仙台市図書館のHPにも掲載されていて、私の実家のある群馬の親類にも読んでもらうことができる。新幹線実用化に関わる仙山線の役割について、関係会社で働く甥との間で話題になるなど、新しい繋がりももたらしてくれた。
- ・現在、「思い出アーカイブ」はどのくらい利用されているのか。

(図書館から)

- ・「思い出アーカイブ」は当館で独自に実施しているものだ。仙台市の図書館で同様の取組みを行っている図書館はなかったと記憶している。
- ・利用状況については、CD-ROMを館内で閲覧される方の数は現状かなり少ないが、仙台市図書館のHPにも掲載しているので、件数は把握していないものの一定程度の閲覧はあるのではないかと。

(個人利用者から)

- ・「思い出アーカイブ」の使い方を知らない方も多く、新しい作品を募集しているということになると、ほとんどの方が知らないのではないかと。
- ・様々な機会を捉えて PR していくようにすれば、この地域にも歴史に詳しい人は多いので、様々な角度での投稿作品が増えていくのではないかと。

(図書館から)

- ・「思い出アーカイブ」に掲載されている個々の作品については、どれも心に迫ってくる内容のものばかりだと感じている。
- ・周知が行き届かず利用が広がっていない点は、図書館としても課題と考えている。様々な形で地域の方々の目に触れるように紹介していきたい。

(児童館から)

- ・「思い出アーカイブ」以外に、仙台市図書館の中で広瀬図書館だけが独自に実施している取組みはあるか。

(図書館から)

- ・仙台市図書館で共通で実施している取組みもあれば、それぞれの図書館で企画した取組みもある。配布資料の事業一覧にはいずれの取組みについても含めている。
- ・天文台と連携した天文教室は広瀬図書館で独自に企画している。そうした意味では他にもいくつか取組みはあるが、そのことが必ずしも伝わっていない面はあるかもしれない。

○選書アドバイザー会議について

(児童館から)

- ・広瀬図書館で実施している「選書アドバイザー会議」のような取組みは、仙台市図書館全体で同じように実施しているのか。

(図書館から)

- ・選書アドバイザー会議については、事業名こそ異なるが榴岡図書館でも同様の取組みを実施している。指定管理者制度導入が早かった関係もあって広瀬図書館で先行して取組みを開始した。その後、榴岡図書館でも同様の取組みが開始された。
- ・その他に泉図書館で実施している取組みとして「YA 委員会」がある。各年度の 5 回の会議に同じメンバーが参加する形の選書アドバイザー会議とは異なり、毎回参加者を募集する形をとっているとのことだ。

(児童館から)

- ・毎年しっかりと参加者が集まるのか。

(図書館から)

- ・ここ数年は定員を超える参加の申込みをいただいている。今年は 13 名の応募があった。

(児童館から)

- ・本離れが叫ばれる中、高校生も含めて応募があるというのは素晴らしいと思う。

○地域課題の解決を支援するために実施する展示等の取組みについて

(地域包括支援センターから)

- ・地域包括支援センターは、主に 65 才以上の方の支援に関わる施設である。
- ・一昨年に広瀬図書館で「認知症フレンドリー」をテーマとする展示を実施されていたが、図書館側で企画したものなのか。
- ・また、展示コーナーの設置期間はどのように決めたのか。

(図書館から)

- ・「認知症フレンドリー」の展示については、隣接する宮城総合支所の保健福祉課からの依頼があって実施した。保健福祉課では関連フォーラムの開催を予定しており、このことの広報も兼ねる形での展示コーナーの設置を依頼されたものだった。
- ・広瀬図書館としては、地域の抱える様々な課題の解決に対する支援のあり方を検討していたところでもあり、「是非に」ということで協力させていただいた。
- ・どういった資料を展示するかについても相談させていただき、「認知症フレンドリー」という視点で紹介できる本を集めて展示コーナーを設置した。
- ・展示コーナーは関連フォーラム開催日の約 1 カ月前に設置し、フォーラム終了後も一定期間設置を続けた。設置期間については保健福祉課と相談して決めた。

(地域包括支援センターから)

- ・我々のセンターでも、解決に取り組む様々な課題があるが、こちらの方から展示の企画を持ち込むといったことも可能なのか。

(図書館から)

- ・来月 3 月には昨年に引き続いて自殺対策強化月間の関連した展示コーナーの設置を予定している。こちらでも宮城総合支所保健福祉課との協力により実施するものだ。
- ・地域課題の解決を支援する取組みについては、今後も積極的に取り組みたいと考えている。貴センターからご相談いただければ嬉しく思う。

○宮城広瀬高校の生徒に対する読み聞かせ指導について

(児童館から)

- ・宮城広瀬高校の生徒に対する読み聞かせ指導に関連して、広瀬マイスクール児童館でも同校の生徒が読み聞かせのボランティアに来てくださっていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症のこともあり、そうした機会が一度もなかった。
- ・高校生たちが来てくれると、子どもたちは喜んでお話を聞く。広瀬図書館でその高校生たちへの読み聞かせ指導をされていたことを知り、そうした面でも支えられていたのだなと思った。

(2) 図書館サービス全般

○書庫で保管する資料について

(児童館から)

- ・書庫にある本は基本的に古くなった資料が多いのか。
- ・また、その後は廃棄することになるのか。
- ・少し前までは開架にあった本が書庫に下げられているということがあるのでお聞きした。

(図書館から)

- ・資料自体が古くなってきた場合に加えて、資料の利用頻度なども考慮する。
- ・ある季節に利用が増える資料(例:クリスマスの絵本、冬物衣料に関する図書など)については、それ以外の季節には書庫に下げているということもある。

○書庫資料の廃棄(除籍)について

(児童館から)

- ・書庫に下げられた資料については、その後に廃棄されるのか。

(図書館から)

- ・資料の廃棄(除籍)については、汚損が著しい場合や内容が古くなって現状に合わなくなった場合に行っている。
- ・新しい資料を受入するためにも、利用頻度や仙台市図書館における複本の所蔵状況なども考慮した上での廃棄(除籍)は適切な頻度で実施していく必要がある。

○貸出を受けた資料が汚損していた場合について

(児童館から)

- ・貸出を受けた本が破れていたり、落書きされていたりした場合、返却の際に図書館職員に伝えた方が良いのか。
- ・何となく自分が汚損したと思われそうで言いにくい面はある。
- ・修理作業は気付いた際に実施しているのか。

(図書館から)

- ・図書館資料の汚損に関連しては、図書館資料の取扱いについて啓発するためのマナーアップキャンペーンを年に1回実施している。
- ・返却時に資料の汚損に気付くことができず、そのまま貸出を行ってしまう可能性はある。
- ・返却時に資料の汚損に気付いた場合は、お返しになられた方に心当たりをお伺いすることもあるが、その方を疑うといった趣旨の対応ではない。
- ・可能であれば修理を施したり、汚損がある旨の表示を行ったりする必要もあるので、気付いた際にはご指摘いただけるとありがたい。

(包括支援センターから)

- ・資料の汚損の話題に関連して、故意でなくても資料を壊してしまったり汚してしまったりした場合は、どういった対応が必要になるのか。
- ・資料を弁償することとなった場合には、汚損してしまった資料を受け取れるのか。

(図書館から)

- ・貸出に供することができないような状態であれば、原則弁償していただくことになる。
- ・図書であれば基本的に同じ資料の現物をお持ちいただく形での弁償をご案内する。
- ・汚損した資料(映像資料を除く)は、弁償手続きが完了した段階で引き渡すことができる。

○電子図書館について

(個人利用者から)

- ・仙台市図書館が 1009 万円の予算を付けて電子図書館の導入を始めるという新聞記事を見た。電子図書館の導入で図書館そのものが変わるのではないかというような内容だった。
- ・私自身、大病を患って図書館にまったく来られない時期があった。その後はリハビリのゴールを図書館として本を読みに来るようにしていた。
- ・健康上の理由で図書館に来られなくなってしまったとしても、電子図書館を使えば在宅で本を読むことができる。仙台市は良い取組みに予算を付けたと思っている。ただ、どういった内容のものなのかは具体的に分からないので、今後の成り行きを見守りたい。

(図書館から)

- ・電子図書館の予算についてはこれから議会での審議が始まる。議会を通れば、その後に具体的な検討が始まるが、事前の準備や職員の訓練などに一定の時間は要すると思う。
- ・予算のうち設備関係が 300 万円程度を占めるので、残る 700 万円少々を電子書籍の購入に充てるという計画だ。冊数の見込みは 2000 冊程度である。
- ・電子図書館のコンテンツには、貸出回数の制限がつくものもある。貸出回数に上限があり、永遠に資料を貸出に供せるわけではない。
- ・今回の議会審議の結果に関わらず、いずれは電子図書館導入の方向には進んでいくのではないかと考えている。紙の図書が好きな方は図書館で本を借り、電子書籍で構わないという方は電子図書館を使うといった形で、二方向での資料提供が行われることになるのではないかと。
- ・政令指定都市では既に電子図書館を導入している館もある。近いところで札幌市、また、浜松市などでも既に導入されている。

(地域包括支援センターから)

- ・図書館をゴールとしてリハビリをされたというお話は、高齢者に関わる施設の職員としてとても良いなと感じた。
- ・シニアの方にもスマホやタブレット、パソコンなどの新しいものに挑戦しようという機運があるので、電子図書館の導入もデジタルな機器やコンテンツに親しむきっかけになるのではないかと考えた。ぜひ実現してもらいたい。

(3) 其他のご意見・ご要望

○利用者懇談会への出席依頼について

(地域包括支援センターから)

- ・地域包括支援センターということ言えば、広瀬図書館にもっとも近いのがあやし地域包括支援センターだが、今回はどうして大沢広陵地域包括支援センターにお声がけをいただいたのか。

(図書館から)

- ・昨年度の利用者懇談会には、あやし地域包括支援センターよりご出席をいただいた。
- ・一昨年に「認知症フレンドリー」に関する展示コーナーを設置したことをきっかけとして、あやし地域包括センター主催の地域ケア会議など、地域で課題解決に取り組む会議に出席させていただく機会が増えた。
- ・貴センターの担当する圏域（大沢広陵地域）から広瀬図書館を利用される方は多い。今後どのような形での連携があり得るとのかといったこともお聞きしたく出席を依頼させていただいた。

○高齢者や地域が抱える動物に関する課題について

(地域包括支援センターから)

- ・様々な課題について考える時に、図書館で所蔵する本を紹介しながら話し合いや研修会を持つと良いのではないかと考える。
- ・地域包括支援センターは主に高齢者が対象となる施設だが、高齢者と切り離すことができない課題が「動物と暮らす」ということだ。
- ・「動物と暮らす」ということについて書かれた本はたくさんあると思う。そうした本を読む機会を持ちながら当事者と一緒に考える機会が得られるようになれば良いと思う。
- ・具体的には、飼い主が病気にかかってしまい、ペットを世話できなくなってしまうといった状況に関することだ。

(個人利用者から)

- ・「動物と暮らす」ことで癒しを得るような本もあると良い。
- ・そうしたテレビ番組が放送されると大人から子供まで男女を問わず安心して楽しめる。本からもそうした癒やしを得たいと思う。
- ・図書館で様々な事業を実施する際には、こうしたことも意識していただけると良いのかなと思う。

(地域包括支援センターから)

- ・東北歴史博物館で、熊と狼と人の関係性をテーマとして特別展が開催されたことがあり、とても興味深かった。
- ・この特別展で扱われたような内容も、言ってみれば「動物と暮らす」ということだなと思った。人と動物との関係に関する図書があれば読みたい。

(図書館から)

- ・東北歴史博物館で開催された「熊と狼の特別展」については、図録を広瀬図書館でも所蔵していたと記憶している。

○地域包括ケアシステムへの図書館の関わりについて

(図書館から)

- ・地域包括ケアシステムの「自立支援」という部分において、図書館がどのように関わっていくことができるかということを考えているところだ。
- ・貴センターで主催される地域ケア会議についても、出席の案内をいただければと思う。
- ・図書館の地域包括ケアシステムへの関わりということについてお考えがあればお伺いしたい。

(地域包括支援センターから)

- ・地域包括ケアシステム自体は国が謳ったもので、ご高齢者が増えてくる中で、介護施設の不足や介護保険制度が追い付かないといった状況の発生が見込まれるので、地域で協力していただきたいというものだ。
- ・地域包括ケアシステム自体がそもそも決まった形がないものでもあり、どのように考えてどのように作っていくかということから始めていく必要がある。
- ・地域包括ケアシステムについてよく言われるのが「自立支援」ということだが、「自立」というのもなかなかこわい言葉ではあって、「自己責任」ということとどう違うのかというようなことも言われたりする。あまり「自立」ということを言ってしまうと、突き放されたように感じてしまう

こともある。我々のセンターでは、「自立」とは何なのかということ当事者と一緒に考えていくということなのかと考えている。

- ・高齢者の自立にとって大切なことは、「行く場所」があること、そして、「行く用事」があることだと思う。「きょういく」と「きょうよう」が大事ということが言われるが、図書館はそういった存在になることができるのではないかな。
- ・そうした時、図書館が高齢者の「行きづらさ」を共有してくれていると良いのではないかなと思う。例えば、事前に連絡しておけば車いすを準備しておいてくれるといったことだ。
- ・高齢の方の中には、子どもや若い世代と交流するということを嬉しいと感じる方も多い。図書館はそうした色々な世代が交流できる場所の一つでもあると思う。特に大沢広陵地域は子どもが少なく、学校がなくなったりもする地域なので尚更喜ばれるのではないかな。

(児童館から)

- ・児童館でも人生の先輩方に昔遊びや折り紙を教わるようなイベントを開催したいと検討しているが、どのように企画を進められるか迷うことがある。
- ・愛子小学校や錦ヶ丘小学校では、「めですこ」という団体が学校と地域の方々と繋ぐ活動をしている。
- ・例えば、野外活動に同行してくれる方やミシンの使い方を教える際の指導を補助してくれる方などを回覧板で募集したりしている。広瀬小学校にはそうした団体がなく、どのように動いてよいのか分からずにいる。
- ・地域のご高齢者などに来ていただくことができれば、地域との繋がりもできてよいと考えてはいるのだが、何か良いお考えはないかな。

(児童館から)

- ・各地域においてそうした情報を持っている組織としてはまず市民センターが思い当たる。
- ・我々のセンターでも、お伺いしている方の中に個々に地域や子どもたちと関わっていきたいという希望を持っている方の情報はあ。
- ・問題となるのは移動の足の部分だが、うまくマッチするととても喜ばれる。大沢小学校で折り紙のボランティアをされている方などもいる。

(図書館から)

- ・コロナで介護施設などでもイベント等は実施できなくなっている。施設自体に入れないことも多い。
- ・様々な世代の交流があれば、そこには新しい発想や刺激も生まれてくるが、今は世代ごとに別に生活することが多くなっていて、施設に入れば外との繋がりも希薄になる。
- ・高齢者は介護施設での学生の実習や幼稚園の訪問をととても喜ぶ。違う世代と接することはお互いに刺激になるし、子どもたちにとってもとても良い経験になると思う。

○広瀬図書館周辺地域について

(個人利用者から)

- ・先日開催された図書館主催の講演会でお話をされたのは地元企業の会長であった。この方は愛子駅前の桜の木の移植にも関わった方だ。
- ・この地域には、他にも大変立派な方が多くおられる。そのことをしっかりと伝えていく必要がある

るのではないかと感じている。

- こうした地の利があり、広瀬図書館もすごいパワーを持っている。
- 11月に開催された「ひろせ寄席」も地元で落語が見られるということで地域の方々がとても喜んでいました。桂竹千代さんの落語はもちろんのこと、館長自ら司会をされ、とても素晴らしかった。